

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	オーケストラ等
----	----	----	---------

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじんにほんふいはーもにーこうきょうがくだん		団体ウェブサイトURL
	公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団		https://japanphil.or.jp/
代表者職・氏名	理事長 平井 俊邦		
制作団体所在地	〒 166-0011	最寄り駅(バス停)	丸の内線 新高円寺駅
	東京都杉並区梅里1-6-1		
電話番号	03-5378-6311		
ふりがな 公演団体名	こうえきざいだんほうじんにほんふいはーもにーこうきょうがくだん		団体ウェブサイトURL
	公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団		制作団体に同じ
代表者職・氏名	制作団体に同じ		
公演団体所在地	〒 制作団体に同じ	最寄り駅(バス停)	制作団体に同じ
	制作団体に同じ		
制作団体 設立年月	1956年 6月		
制作団体組織	役員	団体構成員及び加入条件等	
	理事長:平井俊邦 副理事長:五味康昌 専務理事:福井英次 常務理事:後藤朋俊	理事会 14名 評議員会 25名 楽団員 87名 事務局員 37名 合計:163名	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	荻島 里帆
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	浅見 浩司
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	bunkacho@japanphil.or.jp		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>1956年6月22日創立。楽団創設の中心となった渡邊暁雄が初代常任指揮者に就任。幅ひろいレパートリーと斬新な演奏スタイルで、ドイツ・オーストリア系を中心としていた当時の楽壇に新風を吹き込み、大きなセンセーションを巻き起こした。1962年には世界初となる「シベリウス交響曲全集(渡邊暁雄指揮)」をステレオ録音した。邦人作曲家への委嘱制度として定評のある「日本フィル・シリーズ」は現在まで42作品が世界初演され、再演シリーズも継続。演奏の質と企画の両面から聴衆の広い支持を受けている。2008年ロシアの巨匠アレクサンドル・ラザレフの首席指揮者就任以降は演奏の質に益々磨きをかけ、その後はフィンランド出身のピエタリ・インキネン、そして現在はシンガポール出身のカーチュン・ウオンが首席指揮者をつとめ、充実した演奏活動を行なっている。他に桂冠名誉指揮者として小林研一郎、フレンド・オブ・JPOとして広上淳一が指揮者陣の一翼をなしている。6回のヨーロッパ公演を始め、北米、オランダ、ハワイ、香港、韓国等計10公演を行うなど音楽を通じての国際交流にも大きな役割を果たす。2019年4月に行ったヨーロッパ公演では、フィンランド・ドイツ・オーストリア・イギリス各国で絶賛を浴びた。聴衆育成の分野では1975年より始められたファミリーコンサートをはじめ、子どものための各種プログラム等幅ひろい年齢層を対象とした教育プログラムの分野に於いても極めて先駆的、積極的な活動を続ける。さらに地域における音楽振興にも力を注ぎ、1994年には東京都杉並区と友好提携を結び、フランチャイズ・ホール杉並公会堂を中心に市民のためのさまざまな交流プログラムを実施し、九州公演では2024年度で50回目を迎える等、全国各地での広範な演奏活動を展開している。「音楽を通して文化の発信、感動の共有」を使命にオーケストラ・コンサート、エデュケーション・プログラム、地域活動を活動の三本柱に掲げる。2011年4月「被災地に音楽を」の活動を開始。岩手、宮城、福島県の沿岸部を中心に仮設住宅や学校を訪問し、地域の方との交流を続け、2019年には「東北の夢プロジェクト」として地元の小中高校生と共演を果たす。これまで351回を数え現在も継続中。これらの活動は高い評価を受け、第16回後藤新平賞を受賞。芸術性と社会性を兼ね備え、社会のニーズに応えるトップレベルのオーケストラとして期待される。</p>																																												
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>●過去6年分の公演実績</p> <table border="1" data-bbox="510 953 1675 1252"> <thead> <tr> <th></th> <th>2019年度</th> <th>2020年度</th> <th>2021年度</th> <th>2022年度</th> <th>2023年度</th> <th>2024年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オーケストラ公演</td> <td>9回</td> <td>7回</td> <td>0回</td> <td>7回</td> <td>3回</td> <td>5回</td> </tr> <tr> <td>室内楽公演 ※2</td> <td>25回</td> <td>25回</td> <td>29回</td> <td>24回</td> <td>12回</td> <td>15回</td> </tr> <tr> <td>被災地 ※3</td> <td>33回</td> <td>3回</td> <td>0回</td> <td>6回</td> <td>2回</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>ワークショップ</td> <td>29回</td> <td>4回</td> <td>15回</td> <td>9回</td> <td>4回</td> <td>7回</td> </tr> <tr> <td>クリニック</td> <td>7回</td> <td>5回</td> <td>12回</td> <td>8回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 2024年9月時点 ※2 主な編成＝弦楽四重奏・木管五重奏・金管五重奏/杉並区、さいたま県、その他の小中学校 ※3 岩手・宮城・福島県の小中学校</p>				2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	オーケストラ公演	9回	7回	0回	7回	3回	5回	室内楽公演 ※2	25回	25回	29回	24回	12回	15回	被災地 ※3	33回	3回	0回	6回	2回	3回	ワークショップ	29回	4回	15回	9回	4回	7回	クリニック	7回	5回	12回	8回	2回	1回
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度																																							
オーケストラ公演	9回	7回	0回	7回	3回	5回																																							
室内楽公演 ※2	25回	25回	29回	24回	12回	15回																																							
被災地 ※3	33回	3回	0回	6回	2回	3回																																							
ワークショップ	29回	4回	15回	9回	4回	7回																																							
クリニック	7回	5回	12回	8回	2回	1回																																							
<p>特別支援学校等における 公演実績</p>	<p>2007年12月 山梨県立かえで支援学校(オーケストラ公演) 2008年1月 船橋市立船橋支援学校(オーケストラ公演) 2013年5月 さいたま市立さくら草特別支援学校(室内楽公演) 2013年11月 栃木県栃木特別支援学校(オーケストラ公演) 2016年10月 東京都立青峰学園(オーケストラ公演) 2017年12月 東京都立城東特別支援学校(オーケストラ公演) 2018年11月 広島県立呉特別支援学校(オーケストラ公演) 2021年11月 白鷺特別支援学校(室内楽公演) 2021年12月 水元小合学園(室内楽公演) 2022年9月 宮城県立船岡支援学校(室内楽公演) 2022年9月 宮城県立角田支援学校(室内楽公演) 2023年12月 東京都墨田特別支援学校(室内楽公演)</p>																																												
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>無</p>																																											
<p>※公開資料有の場合URL</p>																																													
<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>																																												
	<p>PW:</p>																																												

別添	あり
----	----

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	「つながるオーケストラ」 ～オーケストラを知って、聴いて、一緒に奏でよう！～			
企画のねらい	今や身近な媒体でいつでもどこでも音楽を聴くことのできる時代だが、コンサートホールに足を運んで生の演奏を聴いたことのある人は年々減少しているように感じる。そのような本物の音楽と出会う機会が限られる中で、今回は音楽とものがたり、音楽と時代の「つながり」をテーマとして企画した。はじめてクラシック音楽やオーケストラを体験する子どもたちにも分かりやすく、興味を抱かせる工夫を凝らした内容とした。また指揮者やソリスト、そしてオーケストラメンバーをも巻き込んで企画立案しているのが我々日本フィルの大きな特徴であり、今回もその力を存分に発揮した企画となっている。音楽と子どもたち、オーケストラと子どもたちを結び、これまでなんとなく触れていた音楽が、より一層輝いて聴こえるものとなるきっかけとなればと願う。いつもの体育館に大勢の人と楽器がやってくるワクワク感も存分に楽しんでほしい。			
演目概要・演目選択理由	小学校の部では、「ものがたりと音楽のつながり」をテーマに選曲した。まず総合芸術とも呼ばれる「オペラ」がどういふものなのか、ソプラノ歌手とオーケストラとの共演を通じて紹介したのち、バレエ音楽、劇音楽(演劇や芝居に付けられた音楽)など、ものがたりや感情を雄弁に「語る」音楽作品を紹介する。作曲家が作品に込めた多彩な表現を通じて様々な心の動きを感じ取り、音楽が表すものを自分なりに想像する機会にしてほしい。中学校の部では、「時代とオーケストラのつながり」をテーマに選曲した。ヴァイオリニストと共に協奏曲を取り上げることで編成(演奏者の人数)の違いを比較すると共に、古典派からロマン派までの多種多様なスタイルを紹介する。時代を区切った選曲をすることで、それぞれの時期や国によって変化するクラシック音楽のヴァリエーションを学んでもらうことができる。(演目概要:別添参照)			
児童・生徒の参加又は体験の形態	【合唱/リコーダー共演】普段使い慣れている楽器や自身の体を使って奏でた音楽とオーケストラが共演する。完成された音楽を奏でることだけではなく、周囲の人と息、音、気持ちを合わせる経験を通して、オーケストラの最も大切な特徴の一つである「大人数で一つの音楽を奏でる」ことの楽しさを味わってもらうことを目的とし、子どもたちにとって特別な演奏体験を提供したい。 【指揮者体験】代表生徒が実際に指揮台に立ってオーケストラを指揮する。代表生徒にはオーケストラを指揮するという特別な体験を提供するのみならず、鑑賞者は指揮者が変わることによってどのように音楽が変化するかをリアルに体験することができる。全体に向けて指揮のレクチャーをすることで、参加者全員が体を使って体験できるよう工夫する。なお、小学校は合唱共演と指揮者体験、中学校はリコーダー共演と指揮者体験のどちらかを学校が選択できるようにすることで、各校のニーズに寄り添ったオーケストラとのコラボレーションを体験することができる。			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	500名程度(指揮者体験:2名)	
		鑑賞人数目安	500名程度(体育館の規模によって変動)	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>【小学校の部】</p> <p>①ビゼー:オペラ《カルメン》より「闘牛士の行進」</p> <p>②【楽器紹介(木管→金管→打→ハープ→弦)】</p> <p>③モーツァルト:《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》より第1楽章</p> <p>④ヴェルディ:オペラ《椿姫》より「乾杯の歌」(*)</p> <p>⑤オッフェンバック:オペラ《ホフマン物語》より「オランピアのアリア」(*)</p> <p>⑥【共演/体験コーナー】(AまたはBのうちどちらかを選択)</p> <p>A:合唱共演/ベートーヴェン:交響曲第9番《合唱》より(岩佐東一郎詞:よるこびの歌)(*)</p> <p>B:指揮者体験/ブラームス:ハンガリー舞曲第5番</p> <p>⑦チャイコフスキー:バレエ組曲《白鳥の湖》より情景</p> <p>⑧ビゼー:組曲《アルルの女》第2組曲第4曲「ファランドール」</p> <p>Enc.1 校歌(*) Enc.2 J.シュトラウス I 世:ラデツキー行進曲</p> <p>(*)・・・ソプラノ歌手出演曲</p> <p>【中学校の部】</p> <p>①ロッシーニ:オペラ《ウィリアム・テル》序曲より「スイス軍の行進」</p> <p>②【楽器紹介(木管→金管→打→ハープ→弦)】</p> <p>③ヴィヴァルディ:ヴァイオリン協奏曲《四季》より「春」(**)</p> <p>④ブルッフ:ヴァイオリン協奏曲第1番より3楽章(**)</p> <p>⑤【共演/体験コーナー】(AまたはBのうちどちらかを選択)</p> <p>A:リコーダー共演/ロンドンデリーの歌</p> <p>B:指揮者体験/ブラームス:ハンガリー舞曲第5番</p> <p>⑥ボロディン:オペラ《イーゴリ公》より「だったん人の踊り」</p> <p>Enc.1 校歌</p> <p>Enc.2 J.シュトラウス I 世:ラデツキー行進曲</p> <p>(**)...ヴァイオリニスト出演曲</p> <p>公演時間 約 70 分</p>			
出演者	<p>指揮:碓山隆一郎・喜古恵理香</p> <p>ソリスト:ソプラノ(*) :今井実希(小学校)/ヴァイオリン(**):橘和美優・水野琴音(中学校)</p> <p>管弦楽:日本フィルハーモニー交響楽団 2管12型</p> <p>※編成は原則。会場条件等により変更する可能性があります。</p> <p>※共演者については、エデュケーション・プログラムに豊富な実績をもつ日本フィルが、演目内容によって適した人材をコーディネートいたします。</p>			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<p>【碓山隆一郎】鹿児島県喜界島出身。東京音楽大学・大学院修了。2015年より渡独し、マンハイム音楽大学およびダルムシュタット音楽アカデミーにて研鑽を積む。帰国後は札幌響、仙台フィル、山形響、群馬響、日本フィル、横浜シフォニエッタ、アンサンブル金沢、愛知室内管、中部フィル、大阪フィル、関西フィル、九州響など多数客演。りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館「新潟市ジュニアオーケストラ教室」指揮者。</p> <p>【喜古恵理香】東京音楽大学・同大学院にて指揮を専攻。汐澤安彦、下野竜也、田代俊文、三河正典の各氏より学ぶ。修了後パーヴォ・ヤルヴィ氏のアシスタントコンダクターを2年間務め、これまでに国内各地のオーケストラと共演。また数多くのオペラ公演に副指揮者として携わる。2022年ひろしま国際指揮者コンクールにて第3位入賞、同時に聴衆賞、オーケストラ賞を受賞。</p>			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む	出演者: 66 名	運搬	積載量: 4 t	
	スタッフ: 9 名		車長: 9 m	
	合計: 75 名		台数: 2 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		有	前日仕込み所要時間		2	時間程度
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出
	8:00	8:00-11:00		13:30	無	14:50	17:30
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。							
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認 します。(大幅な変更は認め られません)	6月		7月		8月		9月
	0日		0日		0日		1日
	10月		11月		12月		1月
	3日		2日		5日		0日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					計	
公演に係るビジュアル イメージ (舞台の規模や演出が わかる写真) ※採択決定後、図 面等の提出をお願い します。				<p><図1> 体育館のフロアにオーケストラを組んだ状態。 ※弦楽器12型、管楽器2管編成 基本は体育館舞台を背にした状態で組む。 後方管楽器の段は、体育館舞台の間口のサイズにより、 もう一段加える場合もある。 管楽器の乗る舞台を平台で組み、よりコンサートホール に近い演奏環境をつくることで、演奏者が最高の状 態でパフォーマンスを発揮できることに加え、音楽全体 のバランスも向上し、よりクオリティの高い演奏をお届け できるよう努めている。 生徒の鑑賞態勢は学校に一任。</p>			
				<p><図2> 演奏者が使用する舞台上の階段(影段)。 丁寧な舞台づくりにより演奏者の安全を確保することで、 微細な不安も取り除き演奏に集中できる環境を整えて いる。またこのような段組みを設置することにより、体育 館といえどもコンサートホールに近い体裁を整え、理想 のオーケストラ音響実現のための努力を行っている。</p>			
				<p><図3> 子どもたちがリコーダーを演奏している様子</p>			
				<p><図4> 指揮者体験の様子</p>			
著作権、上演権利等 の 許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続きの要 否		該当あり		該当コンテンツ名		岩佐東一郎詞:よろこびの歌
	該当事項がある 場合	権利者名	JASRAC		許諾確認状況		採択後手続き予定

別添	なし
----	----

【公演団体名 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団】

ワークショップのねらい	2024年度よりワークショップと本公演に関連性を持たせることに特に着目し、本公演での学びをより深めることを目指した。今回も本公演のソリストの登場やメインプログラムを用いたオリジナルワークショップなど、今まで以上にオーケストラコンサートに対する興味と期待度を高め学びを深めることを目指す。加えて、演奏者が子どもたちの列の中まで進み近くで楽器を見てもらったり、子どもたちが話し合っているところに歩み寄り一緒に会話をするなど、より演奏者を身近に感じられる機会としたい。小学校では、子どもたちに曲のイメージや各楽器がメロディと伴奏どちらを担っているかなどを話し合ってもらったり、マイクを向けて発表してもらったり、主体的に参加してもらえるような内容となっている。中学校では、普段オーケストラではあまり前に出てこない内声部を担う楽器(第2ヴァイオリンとヴィオラ)を紹介することで、音楽の三大要素の一つである「ハーモニー」の効果や編成による役割の変化についての学びを深めてもらいたい。小中学校共に本公演における体験・共演コーナーに関連する内容を設けることで、音楽を合わせること、会場が一体となる瞬間を体感出来るよう努める。その他にも、オーケストラとは一味違う室内アンサンブルの魅力もお届けしたい。		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	500名程度 (対象人数、学年については学校の希望により調整可)
ワークショップ実施形態及び内容	<p>【小学校】 *ソプラノ(本公演のソリストを予定)+器楽2名</p> <p>①器楽によるクラシック作品</p> <p>②楽器紹介</p> <p>③ワークショップ:「クラシック音楽がもっと楽しくなる!ワンポイントレッスン」 *本公演(小学校プログラム)の曲目を用いたワークショップ</p> <p>④ワークショップ:本公演【共演/体験コーナー】関連プログラム A(合唱共演)選択校/本公演での共演に向けた特別レッスン B(指揮者体験)選択校/「校歌」を用いたプロの発声レクチャー</p> <p>⑤ソプラノ+器楽による作品</p> <p>【中学校】 *弦楽四重奏(第1ヴァイオリン・第2ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ)</p> <p>①弦楽四重奏によるクラシック作品</p> <p>②楽器紹介</p> <p>③ワークショップ:「クラシック音楽がもっと楽しくなる!ワンポイントレッスン」 *本公演(中学校プログラム)の曲目を用いたワークショップ</p> <p>④ワークショップ:本公演【共演/体験コーナー】関連プログラム A(リコーダー共演)選択校/本公演での共演に向けた特別レッスン B(指揮者体験)選択校/弦楽ソロ~四重奏まで様々な編成を用いた各パートの役割講座</p> <p>④弦楽四重奏によるクラシック作品</p> <p>公演時間:約45分(小中学校共通)</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>本公演と同様に、基本的には体育館舞台を背にした状態で演奏場所を設置する。会場条件によって柔軟に対応する。(下図:ワークショップの様子)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p><図1> 演奏中の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p><図2> 楽器を近くで見せている様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p><図3> お見送りの様子</p> </div> </div>		

別添	なし
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 日本フィルは楽団活動の指針の1つとして「エデュケーション・プログラム(教育)」を掲げている。「オーケストラ・コンサート」「リージョナル・アクティビティ(地域活動)」と並んで、我々にとって教育活動は大きな比重を占めており、その活動範囲はオーケストラや室内楽の形で日本全国各地に及んでいる。文化庁巡回公演もその一環としてとらえ、通り一遍の「学校公演」ではなく、子どもたちの芸術への興味を喚起し、感動をもたらすよう熟慮しながら企画・演奏を行なっている。ほとんどの場合演奏会場は各学校の体育館であり、また昨今の気象状況も加わって演奏環境を整えるには様々な努力・工夫を要するが、子どもたちが楽しめ、演奏家も心地よく演奏できる環境の整備に努める。ひいては未来の聴衆開拓に繋げるべく長く記憶に残る公演づくりに努めたい。また経費の関係で若手アーティストの起用機会が多くなるが、我々はこれを良いチャンスとして捉え、次世代を担う指揮者・ソリストの活躍・育成の場としてもこのプロジェクトは大変有効なものとして捉えている。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫 オーケストラの企画制作部が軸になって、演奏現場を支えるステージマネージャーと連携し、各学校との連絡や交通・宿泊の手配に至るまで綿密に作業を行う。また日本フィルの特徴として、楽員有志が演奏内容のプランニングの段階で深く関与することが挙げられる。アーティストとしての楽員の視点、事務局としての意向、そしてそれぞれ異なる学校ごとの条件やニーズを踏まえて企画を行なっている。また近年ではワークショップと本公演との関連性も重視し、可能な限り両者がリンクするような内容構築に努めている。 また事前の下見を徹底することで未然の事故や当日のトラブルを防ぐべく努めている。特に当巡回公演では、会場が必ずしもオーケストラの演奏に適した条件とは限らないため、楽器の搬入搬出に安全上の支障がないかを懇切丁寧にリサーチした上で、実施可否を判断している。そして昨今は厳しい暑さや台風・大雪の影響も大きく、体育館で公演を行う場合は特に、子どもたちの体調管理はもちろんのこと楽員のコンディションを保つことも大きな課題である。場合によっては当日現場の判断で水の支給やカイロの配布など臨機応変な判断・対応が求められる。自然災害や事故による交通機関への影響も考慮する必要があり、楽器輸送業者や旅行代理店、現地との連携をより密に行っていく。 楽員ならびにスタッフに対しては、移動行程や地図等を通じて丁寧な案内を行うと共に、公演終了後の精算作業のスムーズ化のため規定フォーマットに基づいた領収証の提出の徹底を引き続き呼びかけていく。</p>
--	--

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団】
<p>演目概要 (小学校)</p>	<p>・ビゼー:オペラ《カルメン》より「闘牛士の行進」 フランスの作曲家ジョルジュ・ビゼー(1838-1875)の代表作オペラ《カルメン》は、スペインのセビリヤを舞台とした異国情緒の豊かな傑作としてビゼーの作品の中で最も人気が高いものの一つである。開幕を飾る序曲にあたる「闘牛士の行進」は、有名かつ情熱的なサウンドで聴き手を魅了する。</p> <p>・モーツァルト:《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》より第1楽章 オーストリアの天才作曲家ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)が残した数々の名作の中でも、最も有名な作品の一つが本作品である。シンプルな構造でありながら、心躍らせるメロディと典雅な雰囲気時代や世代を超えて愛されている。</p> <p>・ヴェルディ:オペラ《椿姫》より「乾杯の歌」 ジュゼッペ・ヴェルディ(1813-1901)は、19世紀に活躍したイタリアのオペラ作曲家。《椿姫》はヴェルディの代表作で、世界中の劇場で今なお愛され、上演される作品である。「乾杯の歌」は第1幕に歌われるアリアで、主人公の男女がパーティで初めて出会うシーンの歌である。</p> <p>・オッフェンバック:オペラ《ホフマン物語》より「オランピアのアリア」 フランスの作曲家ジャック・オッフェンバック(1819-1880)の名作オペラ《ホフマン物語》は、主人公ホフマンが過去の失恋のエピソードを幻想的に語るという内容。「オランピアのアリア」はホフマンが胸をときめかせた人形のオランピアが歌う文字通り人間離れた驚異的な技巧と、でもどこかコミカルに響く非常にユニークなアリアである。</p> <p>・ベートーヴェン:交響曲第9番《合唱》より (岩佐東一郎詞:よろこびの歌) 4年後にフランス革命を抑えた1785年にドイツの詩人シラーによって書かれた「歓喜に寄す」。この詩に感化され、フランス革命が掲げた“自由・平等・博愛”の理想にも強く影響されたものが、「第九」の愛称でお馴染みのルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827)の交響曲第9番《合唱》である。第4楽章で歌われる有名なメロディは、時代も地域も超えて人々に勇気と喜びをもたらしてくれる。今回は日本語の歌詞と共に、この偉大な作品を子どもたちにも体験していただく。</p> <p>・ブラームス:ハンガリー舞曲第5番(小・中共通曲) 重厚な音楽が特徴のドイツの作曲家ヨハネス・ブラームス(1833-1897)の作品の中で、全4集21曲からなる「ハンガリー舞曲集」は発表当時から爆発的人气となり、ピアノ連弾から様々な人の手によりオーケストラレーションが施された。ブラームスが20歳の演奏旅行中にハンガリー出身の共演者から教わったおロマの音楽が色濃く反映されている。</p> <p>・チャイコフスキー:バレエ組曲《白鳥の湖》より情景 ロシアの作曲家ピョートル・チャイコフスキー(1840-1893)の3大バレエ《白鳥の湖》《眠れる森の美女》《くるみ割り人形》は、バレエ音楽を芸術の域にまで高めたという意味において、とても画期的な作品といえる。中でも《白鳥の湖》は、クラシック・バレエの代名詞といえるほどの人気作。今回演奏する「情景」では、美しく切ない物語を音楽で存分に描く。</p> <p>・ビゼー:組曲《アルルの女》第2組曲第4曲「ファランドール」 演劇作品《アルルの女》は、19世紀のフランス人作家アルフォンス・ドーデの同名の短編に基づく作品である。憧れの女性に捧げる若者の純情な愛と嫉妬、それに翻弄される家庭の悲劇をプロヴァンスの田園的風物を背景に描いている。ジョルジュ・ビゼー(1838-1875)はパリ・ボードヴィル座の劇場支配人カルヴァロの依頼を受け、26人編成オーケストラのために舞台音楽を作曲した。この「ファランドール」は、プロヴァンス地方の民謡『王達の行進』のメロディとプロヴァンス舞踊のリズムが組み合わせられた、とてもエネルギッシュで聴き手の心を鼓舞する豪快な音楽である。</p>	

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団】
<p>演目概要 (中学校)</p>	<p>・ロッシーニ:オペラ《ウィリアム・テル》序曲より「スイス軍の行進」 スイスの独立運動のヒーローを描いたオペラ《ウィリアム・テル》。イタリアの作曲家ジョアキーノ・ロッシーニ(1792-1868)が作曲した約4時間の超大作である。中でも序曲はとて有名で、誰もが知っているメロディが沢山含まれている。役人たちに苦しめられているスイスの人々は、ウィリアム・テルをリーダーに粘り強く戦い、ついに勝利を勝ち取る日がやってきて、トランペットのファンファーレが響き渡る。</p> <p>・ヴィヴァルディ:ヴァイオリン協奏曲《四季》より「春」 バロック時代のイタリアを代表する作曲家アントニオ・ヴィヴァルディ(1678-1741)。非常に有名なこの《四季》は「春」「夏」「秋」「冬」の副題を持ち、それぞれの季節の情景を綴ったソネット(詩)がつけられ、音楽はその内容と平行して描写的に描かれてゆく。今回はその中から「春」をお贈りする。 「春」:ホ長調 第1楽章では、鳥が春の到来を喜び歌い、さわやかな風がそよぎ、春雷さえ聞こえてくる。第2楽章では木々の葉ずれの音や犬の遠吠えが描かれる。第3楽章はバグパイプの描写とともに羊飼いとニンフ(妖精)たちの舞曲となる。</p> <p>・ブルッフ:ヴァイオリン協奏曲第1番より3楽章 ドイツの作曲家マックス・ブルッフ(1838-1920)のヴァイオリン協奏曲第1番は、彼の数ある作品の中でも最も演奏機会の多い作品である。情感豊かなメロディとドラマティックな展開はまさしく「ロマン派」そのものであり、ベートーヴェン、ブラームス、メンデルスゾーンといったドイツ人作曲家によるヴァイオリン協奏曲の偉大な流れに連なる傑作である。今回は多彩な演奏テクニックが披露される第3楽章をお届けする。</p> <p>・ロンドンデリーの歌 この曲はアイルランド地方の民謡で、タイトルは北アイルランドの県の名に由来する。世界で最も広く親しまれる民謡の一つで、特に「ダニー・ボーイ」の歌詞のものが有名である。その他にも、クラシック音楽をはじめとした様々なジャンルで愛され、「You Raise Me Up(シークレット・ガーデン)」の旋律に用いられるなど誰もが一度は聴いたことのある美しいメロディが印象的である。</p> <p>・ブラームス:ハンガリー舞曲第5番(小・中共通曲) 重厚な音楽が特徴のドイツの作曲家ヨハネス・ブラームス(1833-1897)の作品の中で、全4集21曲からなる「ハンガリー舞曲集」は発表当時から爆発的人気となり、ピアノ連弾から様々な人の手によりオーケストラレーションが施された。ブラームスが20歳の演奏旅行中にハンガリー出身の共演者から教わったおロマの音楽が色濃く反映されている。</p> <p>・ボロディン:オペラ《イーゴリ公》より「だったん人の踊り」 19世紀ロシアを代表する作曲家アレクサンドル・ボロディン(1833-1887)の作品の中でも、最高傑作と目されるオペラがこの《イーゴリ公》。舞台は12世紀、キエフ大公国のイーゴリ公と遊牧民ポロヴェツ人(タタール、またはだったん人)との戦いを描いた壮大な物語である。この「だったん人の踊り」は、囚われの身となったイーゴリ公の前でだったん人が踊りを披露する場面の音楽である。</p>	